

銚子川の環境つなげ

シー・トゥー・サミット開幕



銚子川の魅力を語る内山さんと田上さん

カヤックや自転車、登山で熊野古道と熊野灘を楽しむ大会とシンポジウム「シー・トゥー・サミット」が十二日、紀北町で始まった。十三日までの二日間の日程で、初日は

「環境シンポジウム」が東長島公民館であり、町外からの大会参加者と地域住民ら約三百人が耳を傾けた。基調講演では、著書「里山資本主義」があるNHKエンターブラ

イズの井上恭介さんが中国地方の山間部や瀬戸内海の事例を紹介しながら、持続可能な循環型社会を保つには、人が常に山や海に入り、手を入れ続ける必要があると説明した。続いて、紀伊半島を拠点に水をテーマにする写真家内山りゅうさんと、町内で環境保全やまちづくり活動をする田上至さんが、町内を流れる清流・銚子川の魅力語り合った。

内山さんは「五十年前と変わらない環境や透明度を保つ川は日本

で銚子川だけ。この環境を子や孫につないでいくことが大切」、田上さんは「流域で開発の動きがあるたびに反対運動をしてきた住民のおかげ。今後も地域一丸となって守ってきたい」と訴えた。

(長崎高太)

中日新聞 く3にお版

2016.11.13